

令和4年度

事業報告書  
一般会計収支計算書

自 令和 4年 4月 1日

至 令和 5年 3月 31日

社会福祉法人 新宮市社会福祉協議会

# 令和4年度 社会福祉法人新宮市社会福祉協議会事業報告

近年、国においては少子高齢化の急速な進行による核家族化、担い手不足、地域における関係性の希薄化など、複雑多様化する福祉課題に対応するために「地域」を基盤とした様々な制度改革が進められてきました。また、新型コロナウイルスの影響に伴い、人と人とのつながりが制限され、社会的孤立や新たな生活困難層の課題があらためてクローズアップされるとともに、生活福祉資金特例貸付事業の借受人に対する今後のフォローアップ支援や生活再建に向けた支援が必要となっております。

このような状況のなか、当会においては地域福祉を推進する中核的な団体として全国社会福祉協議会が策定した「社協・生活支援活動強化方針（第2次アクションプラン）」や「第3次新宮市地域福祉活動計画」（以下、第3次計画）に基づき、地域における福祉課題解決のために様々な事業を実施してまいりました。

地域福祉部においては、第3次計画中間評価にあたり各地区で地区懇談会を開催するとともに地域福祉活動計画推進委員会を設置し、進捗状況や今後の取り組みについて答申を受けました。また、地域生活課題への取組みとしてアウトリーチによる福祉ニーズの把握やサロン活動の支援、生活困窮者に対するフードパントリー事業の実施、住民主体による新たな居場所づくりの支援などに努めました。

介護保険事業部ではコロナ禍においても、感染予防対策を講じながら相談支援や訪問サービスを実施しましたが、新型コロナウイルスの影響や介護職員の不足により令和3年度に引き続きマイナスとなりました。今後は事務所の移転や事業の方向性の検討など経営改善に向けて取り組んでまいります。

## 〔令和4年度重点事業報告〕

### 1. 地域住民及び地域のあらゆる組織・団体等の相互理解と協働による課題解決への取り組み

アウトリーチ（地域に出向いて課題を把握する）や事業等を通じて把握したあらゆる生活課題に対して地域住民の皆様や関係機関、団体等と連携し、課題解決に向けて取組んだ。令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域活動に大きな影響を与えたが、アウトリーチを徹底し、第1層、第2層生活支援コーディネーターや行政等と生活課題や社会資源等を情報共有した。

課題解決の取組みとして住民主体による居場所づくり、認知症の当事者・家族への支援として「ゆったりカフェ」の設置に関する支援を地域住民、社協、行政と協働で行った。また、生活困窮者（社会的孤立、経済的困窮、権利擁護）への相談支援や必要なサービスの提供、必要に応じて関係機関へつなぐなど、個別支援にも積極的に取組んだ。

アウトリーチの徹底により社会資源や生活課題の把握、様々な主体との関係づくりはできたが、課題を共有する場の形成や課題解決に向けた取組みについては計画通り実施できなかった部分もあるため、今後も既存の居場所やサロン等も含め地域住民が気軽に集まれる居場所をつくり、その中で身近にある生活課題を共有しながら個別支援や地域支援に発展していけるよう基盤整備に努めていく。そして、それらのプロセスを通じて地域住民の皆様が主体性を持って活動できるよう下支えしていくことを目指していきたい。

### 2. 安定した経営を持続させるための財源確保、収支バランスの改善

介護保険事業部においては令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、感染者や濃厚接触者等への対応や介護職員の不足により、経営面において大きな影響を与え財源確保や収支バランスの改善には至らなかった。令和5年度は経営改善に向けた体制整備に着手し、収支バランスを改善するために経営分析や改善計画等を策定するとともに、社協の介護保険事業部としての方向性についても検討していく。

地域福祉事業部においても特例貸付事業に対する事務費等の収入により一時的に収支バランスは改善されているが、持続可能な地域福祉事業を展開していくためにも、市と社協がそれぞれの役割や必要な事業、人員等を協議し財源確保に取り組んでいく。

## 〔事業別実施報告〕

### 1. 会の運営と組織基盤の確立

#### (1) 理事会・評議員会の開催

##### 〔理事会〕

令和4年 6月 2日

- ・ 令和3年度補正予算案の同意について
- ・ 令和3年度事業報告並びに法人全体収支決算について
- ・ 理事の退任について
- ・ 理事の選任について
- ・ 第1回評議員会（定時評議員会）の招集について

令和4年 6月23日

令和4年10月13日

- ・ 会長の選定について
- ・ 会長の職務執行状況の報告について
- ・ 令和5年度和歌山県介護人材確保対策事業の受託契約について
- ・ 就業規則の一部改正について
- ・ 新宮ステーションの売却について
- ・ 退任に伴う監事の選任について
- ・ 第2回評議員会の招集について

令和5年 1月26日

- ・ 退任に伴う理事の選任について
- ・ 理事・監事選任規程の一部改正について
- ・ 評議員選任・解任規程の一部改正について
- ・ 障害者（児）特定相談支援事業の廃止について
- ・ 定款の一部改正について
- ・ 第3回評議員会の招集について
- ・ フードパントリー事業の実施について
- ・ 新宮ステーション売却に向けての進捗状況について

令和5年 3月 9日

- ・ 令和4年度収支補正予算案について

- ・ 令和5年度事業計画・予算案について
- ・ 評議員候補者の選定について
- ・ 評議員選任・解任委員の選任について
- ・ 役員等賠償責任保険の更新について
- ・ 第4回評議員会の招集について
- ・ 新宮ステーションの売却について

〔評議員会〕

- |            |  |
|------------|--|
| 令和4年 6月21日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度補正予算案の同意について</li> <li>・ 令和3年度事業報告並びに法人全体収支決算について</li> <li>・ 理事の退任について</li> <li>・ 理事の選任について</li> </ul>  |
| 令和4年10月26日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度和歌山県介護人材確保対策事業の受託契約について</li> <li>・ 就業規則の一部改正について</li> <li>・ 退任に伴う監事の選任について</li> </ul>  |
| 令和5年 2月 7日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退任に伴う理事の選任について</li> <li>・ 理事・監事選任規程の一部改正について</li> <li>・ 評議員選任・解任規程の一部改正について</li> <li>・ 障害者（児）特定相談支援事業の廃止について</li> <li>・ 定款の一部改正について</li> <li>・ フードパントリー事業の実施について</li> </ul> |
| 令和5年 3月22日 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 退任に伴う評議員の選任について</li> <li>・ 退任に伴う評議員選任・解任委員の選任について</li> <li>・ 令和4年度収支補正予算案について</li> <li>・ 令和5年度事業計画・予算案について</li> <li>・ 新宮ステーションの売却について</li> </ul>                            |

〔監事監査〕

令和4年 5月17日 監事2名により令和3年度事業執行状況並びに計算書類等について監査を実施しました。

(2) 正副会長会議の開催

毎月会長、副会長、事務局職員で社協の運営全般にわたり協議しました。

(3) 自主財源の確保と会員加入の促進

① 社協会費会員の加入状況

個人会員（1口 500円） 1,453口（3年度 1,810口）

賛助会員（1口 3,000円） 200口（3年度 199口）

特別会員（1口 5,000円） 41口（3年度 43口）

法人会員（1口 10,000円） 37口（3年度 39口）

会費収入合計 1,901,500円（3年度 2,107,000円）

② 赤い羽根共同募金配分金 1,656,000円（3年度 2,070,000円）

歳末たすけあい配分金 1,338,342円（3年度 1,398,501円）

新宮いのちの募金配分金 247,100円（3年度 476,200円）

MACHIサポート募金配分金 400,000円（3年度 275,000円）

(4) 職員研修等の実施

職員研修等で人権について学ぶ機会を設け、職場全体で人権意識の向上に努めました。

「性の多様性をとおして人権を考える」

講師：新宮市人権教育指導員 谷 嗣弘氏 3月6日

(介護保険事業部)

- ・介護支援専門員スキルアップ研修（毎週開催）
- ・訪問介護員研修会（新型コロナウイルス拡大防止のため不定期で開催）

〔会議〕

和歌山県・市町村社協関係

- ・和歌山県市町村社協連絡協議会令和4年度第1回理事会・総会 4月21日
- ・市町村社協広域・同時多発災害対応訓練打ち合わせ会議（オンライン） 7月4日、11月4日、16日
- ・地域共生社会に向けた取組の具体化検討会（オンライン） 7月12日

- ・市町村社協業務課題検討会「人材確保、人材育成」（オンライン） 8月1日、10月4日
- ・新宮・東牟婁社協職員連絡協議会総会 8月5日
- ・市町村共同募金委員会ブロック別会議 8月9日
- ・市町村地域福祉主管課長・社会福祉協議会事務局長会議 11月24日
- ・市町村社協広域・同時多発災害対応訓練振り返り会議（オンライン） 1月16日
- ・令和4年度シニア災害シンポジウム 1月21日
- ・第33回近畿地域福祉学会和歌山大会 12月18日
- ・令和3年度市町村社会福祉協議会 会長・事務局長会議（オンライン） 2月24日
- ・和歌山県市町村社会福祉協議会 令和3年度第3回理事会（オンライン） 3月11日
- ・令和3年度社会福祉協議会活動全国会議（オンライン） 3月14日

〔研修会への参加〕

和歌山県・市町村社協関係

- ・成年後見制度研修（オンライン含む） 6月～3月 計6回
- ・生活支援コーディネーター研修会 6月16日、10月18日、3月6日
- ・地域課題の解決に向けたソーシャルワーク研修会 7月15日、8月18日、9月29日
- ・全国福祉教育推進委員研修会（オンライン） 8月3日
- ・福祉サービス利用援助事業専門員研修（オンライン） 9月6日、2月3日
- ・児童委員研修会 9月13日、9月14日
- ・生活支援コーディネーター実践研修会（オンライン） 10月18日
- ・市町村老人クラブ女性リーダー研修会 11月17日
- ・単位老人クラブリーダー研修会 11月28日
- ・生活福祉資金貸付事業担当者研修会 12月1日
- ・法人後見研修会 1月17日
- ・社会福祉協議会中堅職員研修会 1月24日
- ・福祉サービス利用援助事業専門員実践力強化研修会（オンライン） 2月9日、10日
- ・市町村社協役職員研修会 2月10日
- ・福祉サービス利用援助事業支援員・専門員継続研修会（オンライン） 2月13日
- ・災害ボランティアセンター中核スタッフ養成研修 3月11日
- ・令和3年度和歌山県認知症キャラバンメイト養成研修 11月25日

・ 今後の成年後見制度を考える研修会	2月26日
<b>介護保険関係</b>	
・ 和歌山県主任介護支援専門員更新研修（オンライン）	全8日
・ 和歌山県介護支援専門員更新研修（オンライン）	全6日
・ 和歌山県介護支援専門員協会紀南支部研修会	2月13日
・ 在宅医療介護連携推進会議研修会	3月6日
・ 和歌山県介護支援専門員協会研修会	4月14日、11月4日、3月16日
・ 和歌山県介護支援専門員協会紀南支部研修会（オンライン、丹鶴ホール）	11月18日、12月16日
・ 同行援護従業者養成研修（一般課程）	9月2日、9日
・ 同行援護従業者養成研修（応用課程）	9月30日、10月7日
・ 医療的ケア児等コーディネーター養成研修	11月27日、28日、1月29日、30日
・ 強度行動障害支援者養成研修	1月26日、27日

(5) 広報誌等の発行

社協広報誌「アシスト」を毎月発行（全戸配布）

## 2. 第3次地域福祉活動計画の推進

### (1) 第3次地域福祉活動計画の基本目標の推進

計画の進捗状況等を評価し、今後の活動について協議するために地域福祉活動計画推進委員会を設置しました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため少人数で計2回開催し、今後の活動を進めるにあたって必要と考える事項について答申を受けました。

### (2) 各地区の課題への取組み

第3次地域福祉活動計画に位置付けられている課題については、各地区の課題を再確認し「まずできること」を意識して課題解決に向け取組みました。新型コロナウイルスの影響により活動が制限され、地域交流イベントや生活課題を共有する場の設置など計画通りに実施できなかった部分が多くありましたが、感染対策しながら小規模イベントの開催、新たな集いの場の創設など課題解決に向けて取組めた地域もありました。今後も課題共有する場や各団体間の横断的な活動の支援など、地域住民の思いに寄り添いながら、地域の実情に合わせて課題解決に向けて取組む。



### (3) 地区懇談会の実施（中間評価）

令和3年度が中間評価の年度でしたが、新型コロナウイルス拡大防止のため令和4年度に持ち越しとなり、市内8地区において地区懇談会を開催し、第3次地域福祉活動計画の進捗状況や今後の取組みについて協議しました。各地区ともコロナ過を考慮し参加人数を制限しながらの開催となりましたが、新たな課題や今後の活動について貴重な意見を多数いただき、第4次地域福祉活動計画も視野に入れた地区懇談会となりました。

## 3. 地域福祉事業の推進

### (1) 生活支援コーディネーターの受託

#### 【第1層生活支援コーディネーター（市内全域）】

令和4年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、啓発普及活動や地域における話し合いの場も限られた地域でしか取り組むことができませんでした。このような状況のなかでも社協地区担当と地域に出向いたことにより様々な地域活動に取り組んでいる団体を把握することができ「地域のお宝」発見に繋がりました。また、住民同士の支え合いや介護予防を推進するため、地域住民の居場所作り、行政支援の情報提供、人的支援などを提案するとともに、他の地区の好事例を紹介するなど地域に寄り添った支援を継続しました。また、各地域の生活課題（介護、認知症等）についても市地域包括推進課や社協、関係機関と連携し、課題解決に向けた支援を実施しました。

#### ① 地域支え合いフォーラムの開催

「住み慣れた地域でいきいきと暮らしたい」という思いを実現するために、今後地域で必要とされる「支え合い」について地域住民の皆様と一緒に考えていくことを目的にフォーラムを開催しました。フォーラムの開催により、参加者の方には助け合いや支え合いの地域づくりの必要性を感じていただき、新たな居場所「ゆったりカフェ（認知症カフェ）」の開催にもつながりました。

開催日：令和4年11月1日（火） 午後1時30分～

会場：丹鶴ホール

参加人数：111名

内容：基調講演「つれもていこらよお隣さん♪♪～支え合いは近所から～」

講師：全国コミュニティーライフサポートセンター理事長 池田昌弘氏

取組発表：「アゲイン広角～一時の活気ある広角の再現～」

発表者：わがら広角 会長 木下 進

② 地域支え合いにかかる研修会の開催

地域活動に興味関心のある市民を対象に、地域活動の担い手の発掘や支え合いの推進を目的とした研修会を開催しました。地域における「ちょっとしたお手伝い」について体験ゲームを通じて活動内容を身近に感じて頂き、活動に取り組むきっかけづくりとして開催しました。

開催日：令和4年10月13日（木） 午後1時30分～

会場：新宮市役所庁舎別館（旧職業訓練センター）

参加人数：13名

内容：生活支援体制整備事業や新宮市の現状と課題について生活支援コーディネーターより説明。

「近隣助け合い体験」ゲーム

③ 地域支え合い勉強会（地区別）の開催

生活支援体制整備事業や新宮市の高齢化の状況を説明し、地域での支え合いの必要性について、各地域の住民を対象に、地域課題の共有及び課題解決に向け、住民や関係機関等と協働で取り組んでいけるよう勉強会（話し合いの場）を開催しました。

<開催状況>

2月 3日 熊野川地区 参加人数：16名（熊野川総合開発センター）

2月15日 千穂第二地区 参加人数：11名（広角会館）

2月24日 千穂第一地区 参加人数：19名（老人憩いの家神倉）

3月 8日 高田地区 参加人数：14名（高田交流センター）

3月15日 蓬莱地区 参加人数：19名（蓬莱会館）

④ その他の取組み

蓬莱地区の新たな居場所として、社協、市地域包括推進課、生活支援コーディネーターとの協働により、「ゆったりカフェ」（認知症カフェ）を創設し、主催者の生きがいづくりや新たな社会資源の開発につながりました。

また、蓬莱地区ではコロナ禍でも見守り活動やつながりを途切れさせない活動が展開できるよう、民生委員児童委員、福祉委員と協働でグラウンドゴルフ交流会を企画し連携強化に努めました。当日は雨となり、グラウンドゴルフは中止となりましたが、蓬莱体育館で景品プレゼント抽選会を行いました。

千穂第2地区「わがら広角」では運動会を開催し、テーマを「アゲイン広角一時の活気ある広角の再現」と

して開催しました。子どもから高齢者まで様々な年代の参加者が交流を図り、新たな関係づくりができ、「わがら広角」のPRや今後の地域活動への関心にもつながりました。

#### 【第2層生活支援コーディネーター（高田・熊野川）】

高田・熊野川地域の高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って在宅生活を継続していくために必要となる生活支援・介護予防サービスの提供体制を構築するため、支援ニーズとサービスコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して支援体制の充実・強化を図ることを目標として取り組みました。

熊野川地区ではチームくまのがわが「防災」をテーマに防災メンバーが中心となり、防災研修会（災害VC訓練）や熊野川中学校の生徒を対象に「きいちゃん災害避難ゲーム」等を実施し、住民の皆様には防災意識向上のための啓発活動を行いました。またチームくまのがわの活動についての取組みを「さわやか地域交流会」にてメンバー2名と報告をしました。

高田地区においては福祉委員会が主となり積極的に活動を行いました。敬老の日の見守り活動として、75歳以上の方を対象に感謝を込めてお花とお赤飯を配りました。（57名）引続き、福祉委員会・公民館・高田区会議と協働で地域づくりについて意見交換等を行う予定にしています。

#### （2）小地域ネットワークづくり事業の推進

##### ①あらゆる生活課題を受け止める相談支援体制の整備

地域のサロン活動への参加や生活支援コーディネーターとの連携により、属性を問わずあらゆる相談に対応しました。

##### ②アウトリーチの徹底

地区担当職員が地域に出向いて生活課題を抱えている一人暮らし高齢者や一人親世帯等を把握し、相談支援や必要に応じて見守り訪問を実施しました。また、自治会、民生委員児童委員、福祉委員、関係団体等と交流を図り、顔の見える関係性を構築することで、潜在的な生活課題の把握も積極的に行いました。

##### ③地域住民や各種団体等が地域の課題や解決策を検討するための場づくり

地域の課題に対して、地域住民や様々な主体が中心となって課題解決に取り組めるよう、地域支え合いフォーラムや各地区での勉強会を通じて、課題を共有する場の必要性を伝えました。また、市内8地区で地区懇談会を開催し課題解決に向けた取組みの進捗状況や今後の活動について意見交換しました。

##### ④生活支援コーディネーターとの連携

アウトリーチやサロン活動等により把握した課題については毎週ミーティングを開催し、部内及び生活支援

コーディネーターと情報共有し、課題解決に向け関係機関と連携しました。

⑤ SNSによる地域活動等の情報発信

各地域の活動について社協広報紙やインスタグラム、フェイスブック、ブログにより随時発信し、地域活動の活性化及び社協活動の「見える化」に取り組めました。

⑥ 民生委員児童委員、区・町内会との連携

市民児協の事業や地域支援、個別支援への取組みを通じて民生委員児童委員との関係性を深めました。また募金活動や助成金事業を通じて区・町内会長との連携を強化しました。

⑦ 地域活動の新たな担い手の発掘

各地域の課題解決に向けた取組みのなかで、生活支援コーディネーターと連携や災害ボランティアセンター設置運営訓練等、社協の事業を通じて新たな担い手の発掘に努めました。今後は課題解決に向け、担い手と地域ニーズとのマッチングに向けて取り組んでいきます。

⑧ 各種団体等による住民主体のサロン活動の支援

社会的孤立感の解消や引きこもりによる心身機能の低下を予防するため、感染拡大防止策を講じたうえでサロン活動等を支援しました。また、地区担当者がサロンに参加することで新たな生活課題や困りごとを把握する機会となりました。

**丹鶴地区**

- ・福祉委員が協力してホウ酸団子を作り、見守りを兼ねて地域住民に配布。
- ・丹鶴公民分館と協働で防災意識の向上を図るための防災講話を丹鶴体育館で実施。（10月23日）
- ・健康体操サロンの実施。（毎月3回開催）

**千穂第1地区**

- ・コロナ禍に配慮し、屋外サロンとしてグラウンドゴルフを神倉小学校で月2回開催。
- ・月1回の健康マー جانを開催。
- ・神倉小学校通学時の朝の見守り活動。（毎月第1月曜日、午前7時半～）

**千穂第2地区**

- ・福祉委員のサロンについては、介護予防体操やグラウンドゴルフ・お出かけサロンを実施。
- ・住民主体のサロンに関しては、助成金を活用し、手作り弁当を配布。また3月にはお出かけサロン（花見）を実施。（参加者19名）

### 王子地区

- ・福祉委員のサロンについては王子会館にて毎月第1火曜日にゆる体操、第3火曜日にはホウ酸団子を作って地域住民に配布した。また、高田グリーンランドへのお出かけサロン、認知症サポート養成講座なども実施。
- ・毎月第2木曜日に王子会館で手芸等に加え、障がい者就労支援作業所との連携による「王子おやつサロン」を実施。
- ・毎月第2・第4火曜日に松山隣保館で布草履作りや、手芸等が行われる「松山サロン」を実施。また令和4年12月22日には3年ぶりに地域住民によるクリスマスミニコンサートを開催。

### 蓬萊地区

- ・蓬萊グラウンドにて民生委員と福祉委員が共同でクラウドゴルフ交流会を開催（4月22日 57名）
- ・ホウ酸団子作りサロンの実施。（5月27日 蓬萊会館）
- ・福祉委員が手縫い雑巾を作り、蓬萊保育所に120枚寄贈しました。（11月2日）
- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の実施。（6月7日、9月13日、2月14日）
- ・蓬萊地区の中道町親睦会にて、ゴミ出しついでにラジオ体操を実施。（毎週水・土）
- ・民踊教室（毎月第1、第4土曜日）の実施。
- ・蓬萊会館にて福祉委員がクリスマス会を実施。
- ・誰もが気軽に立ち寄れる場として、地域の新たな居場所「ゆったりカフェ」を1月30日に創設（第2、4月曜日）

### 三輪崎地区

- ・健康運動指導士による介護予防体操教室の開催（4月26日、10月25日、12月20日延べ参加者約70名）
- ・絵手紙教室、クラウドゴルフ大会を実施。また12月20日には歳末助け合い運動の助成金を活用し、クリスマス会を実施。（参加者36名）

### 高田地区

- ・買い物サロン毎月偶数月第4（月）実施、クラウドゴルフ毎月第1・3（水）若者ひろばにて実施、ふれあいいきいきサロン 月2回実施

### 熊野川地区

- ・熊野川ふれあいいきいきサロン

13ヶ所（19地区）104回開催 参加者数626名 ※新型コロナの影響で9, 10月は休止

(3) 福祉委員活動の推進

①福祉委員登録者数 令和4年3月末現在 8地区合計 312名（令和3年3月末現在297名）

②地区福祉委員会正副委員長会議 年5回開催

③視察研修 新型コロナウイルスの影響により中止

④全体研修会 ①令和4年6月30日「生活支援体制整備事業・地域支え合いについて」

新宮市生活支援コーディネーター 福島 圭 氏

②令和5年2月16日「上富田町まちかどカフェについて」

上富田町まちかどカフェ2名 上富田町社会福祉協議会職員2名

⑤地区福祉委員会ごとに定例会及び研修会を開催

各地区の状況に応じて感染防止策を講じながら、可能な範囲で定例会を開催しました。

⑥ふれあい交流事業への協力

各地区の福祉委員による見守り活動の充実や高齢者の介護予防を目的とし、感染予防対策やプログラム内容、開催の可否等を協議しながら開催しました。

**丹鶴地区**

3月12日 丹鶴ホールを利用し3団体合同（福祉委員・民生委員児童委員・公民分館）で開催。バンド演奏・フラダンス、特殊詐欺被害防止講話を実施。参加者約160名

**千穂第1地区**

11月25日 新型コロナウイルス感染拡大が続き、ご近所との交流が減少する中、地域住民の交流や生きがいづくり、引きこもり防止等を目的として交流会を開催。65歳以上の100世帯へ日用品等の生活必需品を渡した。

**千穂第2地区**

12月6日 新型コロナウイルス感染拡大により関係が希薄化するなか、お正月気分を自宅でも感じてもらうため「寄せ植え」を実施。ボランティア団体のご協力を得て、色とりどりの寄せ植えを行った。  
参加者40名

**蓬萊地区**

11月13日 民生委員と共催でふれあい交流会を実施。グラウンドゴルフ大会を予定していたが、雨天の為、

蓬莱会館での抽選会を開催した。参加者120名

#### 王子地区

11月8日 高齢や障害等の理由により普段、遠出のできない地域住民と一緒に高田雲取温泉へ出向き食事・ゲーム・温泉を楽しんでいただいた。参加者48名

#### 三佐木蜂伏地区

3月11日 「参加者が様々な催し物が楽しめるふれあい交流会を再開したい」という福祉委員の思いから、コロナ禍前のようなふれあい交流会を実施。アコーディオン演奏後、地元有志の民踊・大正琴などの催し物を楽しんだ。参加者95名

#### 高田地区

11月6日 小・中学校による合唱、区民による寸劇やハーモニカ演奏など、地域密着型のふれあい交流会を実施。福祉委員で送迎も行い、参加者には楽しい時間を過ごしていただいた。参加者65名

#### 熊野川地区

11月15日 区長連絡協議会・熊野川公民分館・熊野川地区民生委員児童委員協議会・熊野川地区福祉委員会・ゆうゆうクラブ熊野川支部の5団体共催によるふれあい交流事業を実施。新型コロナウイルス感染予防策を徹底しグラウンドゴルフ大会を開催しました。参加者140名

3月16日 実行委員会で協議し、3年ぶりにふれあいお楽しみ会を実施。障がい者施設のバンド「みぞやんず」による演奏などを参加者に楽しんでもらいました。参加者150名

#### (4) 福祉のまちづくり事業の実施

##### ① 障がい児激励事業（12月19日）

新型コロナウイルスの影響により「新春お楽しみ会」は中止となりましたが障害児父母の会会員約50名に感染予防グッズと弁当を配布しました。

##### ② 「愛の日」バザー 新型コロナウイルスの影響により中止

#### 4. ボランティア活動事業の推進

##### (1) ボランティア・市民活動センター事業

活動の異なる様々な団体が協働して誰もが住みよいまちづくりを目指すとともに、登録している団体・個人がボランティア市民活動センターに常駐し一般市民対象の行事を開催するなど、ボランティア活動への参加促進を図っています。登録数 84団体、個人25名（3年度 84団体・個人25名）

### ① 運営委員会の開催

10名の運営委員及び監事2名により毎月開催（10回）8月、9月は新型コロナウイルスの影響により中止

### ② 広報・啓発

・社協広報誌「アシスト」にコーナーを開設、また参加団体や社協役員、評議員に会報「結夢だより」を送りました。

・掲示板を利用し、参加団体またはセンターの催しなどの情報提供とともにブログにて情報発信しました。

### ③ 交流と連携（ネットワーク）の促進

5月24日 総会

5月13日 講演会「地方の可能性と肯定的な街づくり」29名 講師：福本デザイン事務所 福本友樹氏

11月18日 ボランティア全国フォーラム2022

～今、あらためてボランティアのこれからを考える～ リモート参加 3名

11月24日 電話連絡網交流会 『お互いの顔を知ろう！』（グループごとの顔合わせ交流会）

12月 7日 ウォーキング交流会 『丹鶴城を散歩しよう！』 10名

### ④ 勉強会、研修会の開催

7月 6日 LINEの使い方 講師：わかやまNPOセンター長 志場 久起氏

8月20日 ZOOMの主催講座・交流会 講師：認定NPO法人サービスグラント関西事務所

色川クラフトビールプロジェクトメンバー

NPO広報友の会世話人 槇野吉晃氏

### ⑤ 「しんぐう元気フェスタ」の開催

新型コロナウイルス感染防止から、例年のしんぐう元気フェスタではなく午後だけの縮小版での開催としました。また、昨年度も好評であった「ボランティア川柳」を実施し、入賞者には「しんぐう元気フェスタ」で表彰しました。令和5年2月5日開催（応募総数24名47句）

### ⑥ カルチャーサロンの開催

登録団体の協力により、8サロンを計124回開催。（3年度6サロン 75回）

今年度は、絵手紙教室・ゆる体操・マジック教室・ちぎり絵教室・折形教室・布ぞうり作り教室・盆手前



サークルを開催。また令和4年度より新たに着物リフォーム教室を開催し、常時20名程の参加あり。

筆文字教室は、新型コロナウイルスの影響により休止。

## (2) ボランティアコーディネーター事業

### ① ボランティアの育成

〔研修会等の開催〕

#### ・ ボランティア養成講座の開催

小中学生を対象とした「手話教室」      新型コロナウイルスの影響により中止

一般を対象とした「点字教室」              新型コロナウイルスの影響により中止

〔福祉教育の推進〕

#### ・ 7月8日 福祉教育担当者会議は大雨警報発令により開催中止。

随時、市内小・中・高校の福祉教育担当者と意見交換を行いました。

#### ・ 福祉体験講座の開催

点字・車いす・高齢者疑似体験講座などの出張講座を開催。

中学校2校、小学校5校、新宮市医師会准看護学院1校 延べ8回開催（3年度6校6回）

#### ・ ボランティアスクールの開催      新型コロナウイルスの影響により中止

### ② ボランティア活動の支援

相談、活動支援

（朗読サービス）

毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」をカセットテープに吹き込み、声の広報として発送。

利用者4名      ボランティア やすらぎグループ「声」

（点訳サービス）

点字ボランティア「てんとう虫」により、毎月市広報誌と社協広報誌「アシスト」を点訳し発送

利用者5名

## 5. 要援護者支援事業の推進

### (1) 福祉サービス利用援助事業

判断能力が不十分な高齢者、知的障がい者・精神障がい者等が地域で安心して自立した生活が送れるよう福祉サービスの利用手続きや公共料金等の支払い、通帳や証書の預かりなどの支援を行っています。また、専門

員連絡会や生活支援員研修会、利用者のケース会議等へ参加し、サービスの向上を図っています。

法人後見事業について、地域福祉権利擁護事業で培った高齢者や障がいのある方への支援方法の知識・経験を活かし、ご本人の意思を尊重した支援を行います。また、社会福祉協議会の特徴を活かし、地域住民や福祉・法律の関係機関と連携し、ご本人を中心とした見守りのネットワークを構築します。

契約件数 25 件（高齢者 9 名、知的障がい者 10 名、精神障がい者 3 名、その他 3 名）  
（3 年度契約件数 25 件）

(2) 生活困窮者支援制度への協力

市福祉課の自立相談支援員と連携し、新型コロナウイルスの影響により生活困窮となっている方に対して生活再建に向けての相談や生活資金の貸付を実施しました。

(3) 福祉車両貸出事業 貸出件数 77 件（3 年度 61 件）

(4) 車椅子貸出事業 貸出件数 65 件（3 年度 85 件）

(5) 紙おむつ半額助成事業 新宮市から紙おむつの給付を受けている方で社協会員を対象に実施。  
利用者数 7 名（3 年度 6 名）

(6) 貸付事業の実施

・生活福祉資金貸付事業（県社協受託事業）

低所得者世帯の生活の安定と経済的自立を図るために和歌山県社会福祉協議会からの受託事業として実施しています。また、新型コロナウイルスの影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯を対象に生活福祉資金特例貸付を行いました。令和 4 年 9 月末で特例貸付の受付が終了し、令和 5 年 1 月より一部を除く方の償還が開始されるため、引続き困窮されている方の状況把握や関係機関との連携等により継続的に支援を行っていきます。

◎本則による貸付 3 件 2,940,000 円（3 年度 0 件）

◎特例貸付 731 件 256,221,000 円（令和 2 年 3 月 25 日～令和 4 年 9 月 30 日）

・緊急小口資金貸付事業

10 万円を限度に緊急を要する低所得者に貸付しました。

貸付件数 5 件 460,830 円を貸付（3 年度 3 件 284,700 円）

## 6. 災害時対応事業の推進

### (1) 災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施

2月25日、千穂第2地区を被災地区と想定し、地域住民や民生委員児童委員・福祉委員・町内会、高等学校、関係団体等との協力により実施しました。今回は被災ニーズの代わりに市内の事業所施設や公園などの美化清掃活動を行っていただきました。また、訓練後は和歌山県災害ボランティアセンター所長の南出氏をお招きし、災害ボランティアセンターの役割や訓練の総括をしていただきました。参加者約100名

### (2) ボランティア・市民活動センターとの連携

例年災害ボランティアセンター設置運営訓練時に活動ボランティア、運営ボランティアとしての協力をしていただいておりますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、参加人数を制限し活動ボランティアとして協力を仰ぎました。

### (3) 和歌山県社会福祉協議会（和歌山県災害ボランティアセンター）との連携

南海トラフ地震や大雨災害等を想定した場合、県社協単独で必要な運営支援を行うことは困難なため、市町村社協と県災害ボランティアセンターが一体となって、「先遣隊」「災害VC運営支援者」を養成し派遣する仕組みを構築しました。

- ・被災地災害VC運営支援の経験を有する職員を災害VC運営支援者としてリスト登録
- ・災害VC運営支援、中核スタッフ養成研修への参加

### (4) 県下市町村社会福祉協議会における災害時の相互支援

平成24年1月30日に締結された「社会福祉協議会における災害時の相互支援協定」によって県内の市町村社協と災害時の相互支援について取り決めております。また、毎年和歌山県市町村社協連絡協議会に災害時の相互支援活動積み立てとして拠金しています。

## 7. 善意銀行の運営

137,370円(7件)の寄付金を受入れました。

(令和3年度 205,505円 14件)

## 8. 福祉サービスにおける苦情解決第三者委員会の運営

- ・第三者委員による検討事案はありませんでした。

## 9. 福祉関係団体との連携

### (1) 民生委員児童委員協議会との連携

- ・子育て支援事業 12月に子育てサロンを3年ぶりに実施。「サンタさんと遊ぼう」17組38名
- ・生活福祉資金貸付審査及び償還調査の依頼。(貸付審査3件)
- ・一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業の共催。

### (2) ゆうゆうクラブ(老人クラブ連合会)との連携

- ・老人クラブ活性化の推進

クラブ活性化のため、コロナウイルス感染対策を徹底し中止になっていた行事を再開し、老人が生きがいをもって活動できるよう連携しました。

- ・女性部活動の推進

会員の多くが女性のため、女性部活動を充実させることで新規会員の獲得ができるよう連携しました。

女性部交流会：グラウンドゴルフ大会を開催(広角用地 参加者72名)

健康づくり教室：12月16日 「介護予防のための楽しい音楽体操」 参加者72名

栄養講習会：糖尿病予防と新型コロナウイルス接種後の生活注意点について

熊野川開発センター 11月16日 10名

福祉センター 11月21日 44名

三輪崎会館 11月29日 11名 計74名

- ・生きがいと創造の事業の推進

健康、生きがいづくり事業として「生きがい・はつらつ教室」「老人菜園」の実施協力をしました。

生きがい・はつらつ教室 15教室 受講者 278名

老人菜園 2カ所 利用者 64名

- ・愛の日ゆうゆうクラブ芸能大会への協力 丹鶴ホール 10月29日 14演目 参加者約300名

### (3) 赤十字事業への協力

- ・日赤活動資金募集 お願い額4,330,000円に対し、実績額2,425,793円

(令和3年度 実績額2,081,800円)

(4) 共同募金運動への協力

・赤い羽根共同募金運動

募金が地域の活動に活かされ自分たちのまちを良くするために3つの募金活動「ささえ愛募金」「MACHIサポート募金」「新宮いのちの募金」を実施しました。

目標額 3,262,000円に対し、実績額 3,012,044円

(3年度 実績額 3,122,101円)

- ・歳末たすけあい運動 1,735,525円の募金があり1,338,342円を配分  
(3年度 1,682,183円の募金があり、1,398,501円を配分)

【配分内訳】

町内会(4町内会)	198,000円
ボランティア市民活動団体(9団体)	430,000円
一人暮らし・寝たきり高齢者激励訪問事業	329,257円
事務費	53,224円
障がい児激励事業	158,485円
フードパントリー事業	169,376円
合計	1,338,342円

・フードパントリー事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、収入の減少や家計負担が大きくなっている状況の中、「歳末たすけあい運動」の配分助成により、生活困窮者世帯に対して食料等の提供及び生活相談の機会をつくり、各世帯の不安軽減を図りました。

実施期間：2月5日(日)午後1時～4時、2月6日(月)～2月10日(金)午前9時～午後4時

受渡世帯：43世帯

## 10. 指定管理者制度（受託事業）の推進

### (1) 福祉センター管理運営

福祉センター貸館業務 高齢者の生きがい教室や研修会等への貸館業務を実施。  
延べ利用者 17,630名（令和3年度 12,139名）  
高齢者入浴サービスの実施 福祉センターの浴室を毎週開放（火曜日女性、金曜日男性）

### (2) 中央児童館の運営

子どもの健やかな育成を図るために、日々の遊びを通しての個別指導の他、集団でのクラブ活動、創作や季節行事、野外での自然体験活動、異世代間の交流事業など、様々な遊びを通して健全に発達していくよう支援をしています。

4年度は通常通りの開館でしたが、市内の感染状況を考慮し、感染対策を行いながら活動しました。

5月9日～14日まで、職員コロナ感染のため閉館となりました。

予定していた行事が中止となりました。

#### ① 運営委員会の開催（運営委員8名）

7月13日 令和3年度活動報告並びに令和4年度事業計画他について承認（7名出席）

#### ② 利用状況

登録人員 386名 年間延べ利用者数 9,396名 開館日数238日 1日平均 39名  
（令和3年度 351名 年間延べ利用者数 8,574名 開館日数242日 1日平均 35名）

#### ③ 主な事業内容（ ）は参加人数

・クラブ活動を通して集団的援助活動

週1回実施：スポーツ火曜日クラス（22名）・スポーツ金曜日クラス（24名）・卓球クラブ（9名）  
パッチワーク（12名）

月1回実施：わくわくクラブAクラス（年長児10名）・わくわくクラブBクラス（年長児10名）  
にこにこクラブ（1年生14名） 計7クラブ

・ジュニアボランティアの育成

ジュニアボランティアクラブ（4～6年生対象 月1回の定例会と児童館行事の手伝い）

- ・ 運動遊びを通した体力づくりの推進  
スポーツクラブ・ドッジボール等
- ・ 未就園児の親子を対象にした子育て支援活動の実施  
親子であそぼうクラブ(月2回 12組 計21回実施)
- ・ 市児童館や子育て関係機関との連携  
市子ども子育て会議  
市子育てネットワーク会議  
市児童館会議(3ヶ月毎に年4回開催)  
児童館合同チャレラン大会 延べ31名参加  
児童館合同オセロ大会 7名参加
- ・ 季節行事の実施  
七夕飾り作り(22名)・お月見のつどい(23名)・ハロウィンクッキー作り(26名)・アドベントカレンダー作り(24名)・クリスマスお楽しみ会(31名)・年末大掃除(25名)  
かるた大会(22名)・こままわし大会(8名)
- ・ 創作活動や体験活動  
スライムづくり(24名)・ギネス世界記録に挑戦(13名)・グランドゴルフをしよう(9名)  
つくってあそぼう(計3回 延べ40名)・夏休みお楽しみかき氷体験
- ・ その他の事業  
春のおたのしみひろば(53名)・フロアホッケーをしよう(20名)・おはなし会(計3回69名)  
こどもまつり(193名)・春休みハイキング(29名)
- ・ 保護者対象事業  
保護者対象人権学習とレザークラフト講座(11名)
- ④ 新型コロナウイルス感染防止のため中止となった主な事業
  - ・ 市内5児童館合同ふれあい遠足
  - ・ ゆうゆうクラブ女性部との交流「ふれあいおはぎ作り」

1.1. 介護保険事業の運営  内は前年度実績 ※少数点以下は四捨五入

(1) 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

介護ケアプラン作成件数	933件（月平均78件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">989件（月平均82件）</span>
介護予防支援計画	133件（月平均11件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">137件（月平均11件）</span>
介護予防ケアマネジメント計画	34件（月平均3件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">70件（月平均6件）</span>
介護認定訪問調査の受託	0件	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">0件</span>

(2) 訪問介護事業（ホームヘルプサービス事業）

・介護保険訪問介護（要介護1～5）

延べ利用者	29,672名（月平均2,473名）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">34,146名（月平均2,846名）</span>
訪問時間	28,937時間（月平均2,411時間）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">32,605時間（月平均2,717時間）</span>

・介護予防訪問介護（要支援1・2）

延べ利用者数	6,682名（月平均557名）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">7,915名（月平均660名）</span>
訪問時間	6,750時間（月平均563時間）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">7,939時間（月平均662時間）</span>

・障害者総合支援居宅介護事業（障害児者へのホームヘルプサービス）

延べ利用者数	9,235名（月平均770名）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">11,140名（月平均928名）</span>
訪問時間	9,181時間（月平均765時間）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">11,228時間（月平均936時間）</span>

・にこにこサービス（介護保険外自費サービス）

延べ利用者数	79名（月平均7名）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">212名（月平均18名）</span>
訪問時間	83時間（月平均7時間）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">229時間（月平均19時間）</span>

(3) 熊野川地域包括支援センター

相談件数	198件（月平均17件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">256件（月平均21件）</span>
介護予防支援計画	82件（月平均7件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">91件（月平均8件）</span>
介護予防ケアマネジメント計画	123件（月平均10件）	<span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">81件（月平均7件）</span>



介護予防教室開催回数 22回 24回  
参加人数 112名 147名

#### (4) 和歌山県介護人材確保対策事業

介護現場において、慢性的な人手不足等により介護人材を確保できていない現状にあるなか、県から「和歌山県介護人材確保対策事業」を受託し、介護に関する知識及び技術を修得する機会を創出することにより、介護現場への新規参入を図ることを目的として新翔高等学校の生徒を対象に「介護職員初任者研修修了資格」取得のための講師として職員を派遣。 受講者数 10名 (令和4年度で終了)